

## 応用行動分析

### 応用行動分析とは？

ABA分析(Applied Behavior Analysis)と呼ばれ、人間の行動や気持ちの原因を周囲の環境との関係のなかで見ていく。教育、医療、福祉、リハビリテーションなど幅広い領域に用いられ、発達障がい、依存症などに有効とされている。

問題行動は過去の間違った学習によって報酬が得られたことで引き起こされる。その行動に対して適切な学習を行い、問題行動の減少および適切な行動(望ましい行動ともいう)に切り替えていく。

どのような行動に用いられるのか？

- ①「他者を巻き込み、周囲の活動を制限する」②「本人の学習や社会活動への参加を妨げる」
- ③「他者や本人に危害や損害を及ぼす行動」 これらを問題行動と呼んでいる

### 原因

- ①「要求の実現」例：おもちゃを買ってほしいためにかんしゃくを起こす
- ②「回避と阻止」例：嫌な状況を噛むなどの方法で切り抜ける
- ③「注目欲求の実現」例：集団場面で騒いで注意されることで周囲の注目を浴びる

### 解決へのプロセス

- ①「原因を理解・特定する」②「適切な方法を知る」③「その方法を実施し続ける」

例

買い物に行くとおもちゃ売り場の前で子どもが「買って」と大泣きする

対応1：行動が起きる前後を調べる



過去に泣くことでおもちゃを買ってもらえた結果があるため、「おもちゃ売り場で泣く」という行動が増える(強化という)

対応について

問題行動への対応は「①問題行動を減らす(消去)」と「②望ましい行動を増やす(強化)」を同時に行う。

「①問題行動を減らす(消去)」



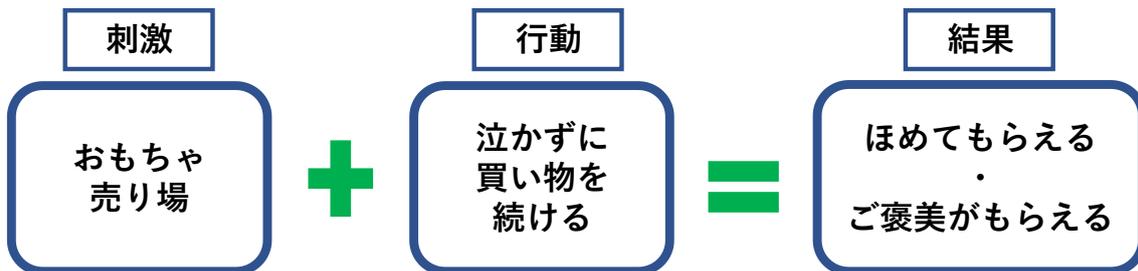
この対応を毅然とした態度で行うことにより「泣いてもおもちゃが手に入らない」という学習を行う。他には「別のことに注意を向ける」「キッズコーナーで遊ぶ」「おもちゃ売り場を避ける」など方法がある。

※ ただし、消去を行うことで一時的に問題行動が増えるもしくは激しくなることがある。

「消去爆発(消去バースト)」が起きる。多くはこの状況で対応を諦めてしまうため、問題行動の解決が困難になっていく・・・

⇒この状況が起きても続けることで問題行動が減少していく

「②望ましい行動を増やす(強化)」



この対応を「①」と同時に行うことで問題行動が減少し、望ましい行動が増えていく。ご褒美はシールなど、目に見えるかたちで行う。シールが3つ溜まるとおもちゃと交換というポイント制など工夫でより行動が増えていく(ご褒美は無理のない範囲で・・・)

## 問題行動記録表使い方

月	日	曜日	時間	園児名	問題行動	問題行動に至る直前の様子(わかる範囲で)	対処方法とその後の様子	記録者
5	25	月	9:45 礼拝前	A君	着席する時間帯に 立ち歩く	礼拝までの動きが ゆっくりだった	保育士が注意するも 治まらず別室対応	
5	29	金	10:50 設定保育2	A君	保育室内を走り回る	そわそわしていた 直前の設定保育1 では落ち着いていた	声掛けでは収まらず 個別対応	
6	8	土	11:20 自由時間	Bちゃん	おもちゃを他児に 向かって投げる	おもちゃを棚から 落として 遊んでいた	保育士が注意する 他児は怒っていた	

- 1: 問題行動が起きる時間帯や直前の状況などの共通しているところを見つける。
- 2: 「対処方法・その後の様子」から問題行動を行うことで得していることがあるか? 調べる
- 3: 問題行動に対して対処方法を検討する